

参考図書

1. 並木 美喜雄 著 「パリティ物理学コース 解析力学」 丸善
2. 田辺 行人・品田 正樹 著 「理・工基礎 解析力学」 裳華房
3. 原島 鮮 著 「力学（改訂版）」 I, II 裳華房
4. 山内 恭彦 著 「一般力学（増訂第三版）」 岩波書店
5. 大貫 義郎 著 「解析力学（物理テキストシリーズ）」 岩波書店
6. 上田 顯 著 「分子シュミレーション-古典系から量子系まで-」 裳華房
7. 高橋 康 著 「量子力学を学ぶため解析力学入門」 講談社サイエンティフィク
8. ランダウ、リフシッツ著（広重・水戸 訳）
ランダウ・リフシッツ理論物理学教程「力学」（増訂第3版）東京書籍

大学1-2年生の時に学んだのは（3. 原島 鮮 著）で、（4. 山内 恭彦 著）や（8. ランダウ、リフシッツ著）は頁を繰っても眺めるだけに近かった。30数年後に再度、この二冊を読んでみることになったが、なるほどと思う箇所が増えているのは嬉しい。（7. 高橋 康 著）は、大学院生の頃に購入し、以来時々眺めて来た。これら以外の上記テキストは比較的最近の出版と言えるが、どれもそれぞれ特色があつて良いテキストである。特に、（1. 並木 美喜雄 著）と（2. 田辺 行人・品田 正樹 著）は大変良い勉強になった。いずれも80年代末~90年代初めに出版された教科書である。（1. 並木 美喜雄 著）は解析力学の初歩から始めて、正準変換の議論は、統計力学の基礎まで展開されている。式の意味するところの議論が丁寧で詳しい。（2. 田辺 行人・品田 正樹 著）はコンパクトな内容で、無駄のない丁寧な記述の教科書で、例題や練習問題も多い。（2. 田辺 行人・品田 正樹 著）で解析力学の基本を一通り学んで、（1. 並木 美喜雄 著）で再度広い視野から再考するのが良いのではと思った次第である。

本文で紹介した新書版、文庫版の図書

1. 藤原正彦 著（1997）「心は孤独な数学者」、新潮社（同名のタイトルで新潮文庫に所蔵）
2. マルコム、E. ラインズ 著（青木 薫訳、2004）「物理と数学の不思議な関係、遠くて近い二つの科学」、ハヤカワ文庫 NF295.
3. 並木美喜雄 著（1992）「量子力学入門」、岩波新書.